

生涯学習情報紙

平成26年度

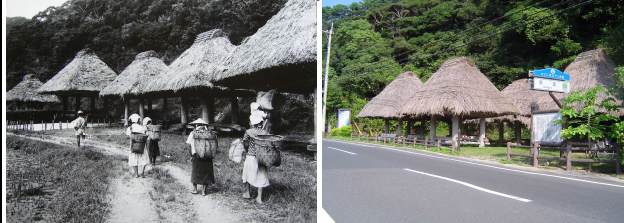


第244号 発行：大和村教育委員会事務局・中央公民館

シマ(集落)の宝を【奄美遺産】へ ～ワキヤシマ(集落)に誇りたれものはありますか?～

私達の住むシマ(集落)には、数十年、数百年続く地域の行事や工芸、忘れられている自然の生業など、古いものから新しいものまで、気が付けば身近に気になる文化的な遺産(指定・未指定問わず)があります。その中から奄美群島で大事にしたいものを『奄美遺産』として登録し、次の世代に伝え、守っていくと共に、観光や地域づくりに活かす取り組みを群島の皆さんとともに進めていきます。

奄美群島文化財保護対策連絡協議会では、平成26年度より、各市町村で推薦された文化財・文化遺産を奄美遺産に認定していきます。



奄美遺産候補「群倉(県指定文化財)」

今里集落の遺産調査

3月12日(水)に、奄美群島文化財保護対策連絡協議会の中山清美会長や、昭和58年に大和村を調査し大和村誌編纂に活用した民俗学叢書「大和村の年中行事」を発行した、盛岡大学 大石泰夫教授などが今里集落に訪れました。今回の集落遺産調査は、本村の文化財保護審議委員も同席し開催。午前中は聞き取り調査を行い、午後からは、聞き取りを踏まえての現地踏査を行いました。永田義久委員が今里のシンボルである立神の景観や海岸線のサンゴの石垣、旧今里小中学校の奉安殿など今里集落の「昔と今」を紹介、またトネヤからのカミミチやケムンが棲む場所などをマップを使って説明しました。シマの貴重な文化・文化財を次世代に伝え、守っていくためには私達がどのように進めるべきかを考える集落遺産調査となりました。



いまどぬしまや
やんごみずかか
どこにうしじやしも
ことやかかぬ
「やんご」は神人が水浴びする川や泉のこと、神の水
「南島歌謡大成」より

今里の村は
ヤンゴの水がかかから
何処に押し出しても
恥はかかない

私達が畏(おそれ)、敬(うやまい)、守り、伝え、残した

4月23日～5月12日は『子ども読書週間』

4月23日は『子ども読書の日』です。これは、国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために設けられました。この日を中心に、学校・地域・家庭を通じて、子どもの自主的な読書活動がより一層進められることが望まれています。この機会にぜひ読書の習慣を身に付けてみませんか?

『1日20分読書』運動～いつも身近に1冊の本を～

「1日20分読書」運動は、全ての子どもが1日に少なくとも20分程度の時間を読書に親しむよう、取り組みます。家庭や学校ではもちろん、部活動や少年団活動の時、外出する時などにも、いつも身近に1冊の本があるという環境をつくり、読書の習慣を身に付けていくことが大切です。

乳幼児 | 小学生 | 中学生 | 高校生

いつも身近に1冊の本を

家族と一緒に20分



朝読み夕読み20分



ジャンルを広げて20分

自分を見つめる20分

家族と一緒に20分

乳幼児期の子どもには、読み聞かせなど家族の協力が重要です。家族一緒に読書の習慣をつくりましょう。

朝読み夕読み20分

小学生の時期は、言葉や文章の意味を考えながら音読することが大切です。朝や夕方の音読を続けましょう。

ジャンルを広げて20分

中学生の時期は、読書の幅を広げることが大切です。文学、科学、歴史、郷土など様々なジャンルの本に幅を広げて読みましょう。

自分を見つめる20分

高校生の時期は、自分自身の生き方を見つめるためにも読書が大切です。いつも身近に1冊の本を置き1日20分の読書に心掛きましょう。

平成25年度 各種行事のお礼

平成25年度も各種大会・研修会等で地域の方々に大変お世話になりました。心から感謝申し上げます。平成26年度も様々な場面で、皆様方のお世話になるとは思いますが、今後とも【人づくり・地域づくり・夢づくり】の社会教育活動に取り組んでいきたいと思っております。